

第1回 スマートウェイ推進会議作業部会 議事要旨

1. 開催日時・場所

日時：2004年11月12日（金）10:00～12:00

場所：虎ノ門パストラル 新館 4F アイリスガーデン

2. 出席者(敬称略)

委員：川嶋部会長、赤羽、岩貞、上條、長谷川、古川、廻、下平、西田、吹譚、
小俣（代理）、藤本、室城、渡辺（代理）、和迩（代理）

オブザーバー：藤井、小林、辻、中村、野村（英）、野村（正）、進藤

代理出席の委員は（代理）と標記

3. 主な意見等

- ・ 道路と通信というライフサイクルの大きく異なる 2 つのインフラが 1 つの産業を作るとするのは非常に難しい。道路と通信を組み合わせたセカンドステージのインフラを整備するにあたっては様々な利用シーンを想定しておくことが重要。
- ・ 全体最適化の視点で研究開発を進めることが重要。国内の最適化の点では、ユーザーのメリットがポイントであり、消費者本位で検討すべき。国際の最適化の点では欧米やアジアの規格の動向を十分に考慮して検討すべき。
- ・ 単機能のものを早期に開発したいという考えと全体最適を念頭に共通基盤を開発していくという考えのバランスをうまくとり、多様な官民のサービスが実現可能な共通基盤としてほしい。
- ・ 共通基盤への要件として複数の通信手段との連携をあげているが、すでに様々な通信メディアに関する検討が進められている。特定の通信メディアにこだわらない共通基盤を構築してほしい。
- ・ 仕様策定にあたっては、細部まで厳密に定めずに、技術革新が取り入れられるようなものとして実現したい。多くの方からよい提案がいただけることを期待する。
- ・ 路車間通信だけでなく車車間通信のような拡張性も、できる範囲で踏まえて検討いただきたい。
- ・ サービスが広く普及するには、ユーザーの視点では VFM (Value for Money) が重要。様々なサービスが実現する結果、ユーザーの負担コストが大きければ普及しない。従って、開発者側は普及目標を念頭にスペックを考えることが必要。
- ・ 共通基盤の規格・仕様策定にあたっては、3つのサービスの他に様々な使い方も想定し、想定外のサービスにも対応できるようにしておくべき。
- ・ 安全サービスは、センサー / 情報提供 / 人の行動といった一連の不確実なシステムで構成される。安全性担保のためにはシンプルなものから慎重に提供していくという哲学は重要。
- ・ 安全の議論は大変重要であるので慎重に進めていただきたい。